



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第四十五号〕

霜降そうこう

十月二十三日



コドノさん

昔から伝わるお祭りや行事の中には、地元の人でも由来や神様の名前さえわからないものがあります。

先日連れて行ってもらった、五十鈴川上流の高麗広の「コドノさん」もそうでした。毎年十月の日曜に行われている行事ですが、高麗広の集落から離れた谷間にあるカシの木に注連縄しゆなわを張り替えるというものです。

朝八時過ぎ、高麗広公民館から少し上手の田代橋を右手に入り、林道を行くと四名の地元の方がゴザを敷いて注連縄作りをしている最中でした。田代谷という広野で、近くの川には石橋も架かり、森の奥にこれほど拓けたところがあるとは意外でした。

「ここは山向こうの矢持町の床木いすのきの人が田んぼをこしらえとったところ」「二十年前までやな」「車やと矢持までは一時間かかるけど、山を越えると三十分くらいで着く。近いもんや」。皆さんは縄を結わう手を休めることなく、口々に教えてくれます。

「コドノさん」はオオカシの古木でした。数年前に枯れて、根元から二メートルほどのところで折れていました。樹齢四百年と推測される太い幹の根元には、小さな祠が祀られています。カシの木に大きな注連縄を、祠に小さな注連縄を張った後、皆でお参りをして行事は済みました。

「コドノさん」については調べても、市史に「小殿さん」と記されているほかは分からなかったそうです。明和町にはコドノという字あざがあり、コドノ遺跡が知られています。田んぼを開拓した時に祀ったものか、またはカシの大木だけに炭焼きに関わるものか。分らないけれど、地元では毎年十月になるとコドノさんの注連縄の張り替えを欠かすことはありません。神宮の森の小さな秋の行事に素朴な信仰を見ました。

文 千種清美